

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	西岡 一也		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	工学複合プログラム	-	JABEE基準1(1) -
授業の概要と方針	よりの確な理解と適切に表現する能力の獲得を目指し、近代以降の文章を読解し作品を鑑賞する。そのことを通して言語感覚を豊かにし、言語文化への関心を高め、ものの見方考え方を深化させたい。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	いろいろな分野の作品、文章を読み、まず内容を正しく理解できるようにする。		單元ごとに教科書にある学習課題などを利用し理解度を確認する。
2	ものの見方考え方の多様性を知る。		評論のような文章では筆者の対象への視点、随筆などでは素材の選び方にその個性、人間性が表れる。それが確実につかめているかを定期試験などで確かめる。
3	自分の感じたこと考えたことを適切に表現し伝えることができる。		意見文、感想文、評論文などの実作を提出させ評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、小テスト10%として評価する。		
テキスト	新編現代文(明治書院)		
参考書	なし		
関連科目	四年国語表現。		
履修上の注意事項	二年の「国語総合」で学習した内容のうち近代以降にしぼり、より読み応えのある文章を学習し国語表現に関心を持つことにより四年の日本語コミュニケーション能力の育成へとつなげたい。		

授業計画 1 (国語)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	評論を読む	「知識の扉」を通して筆者独自の視点をとらえる。
2	文体と構成	評論としての構成法, 文体を理解する。
3	論理的文章	エッセイ的な評論であっても論理性は失われてはいないことを確かめる。
4	小説を読む	「山月記」を読み格調高い文体を味わう。
5	小説の目的	文学の究極の目的である人間の存在について理解を深める。
6	小説の技巧	さまざまな修辭法を味わうとともに虚構について理解を深める。
7	小説の構成と主題把握	小説独自の展開を味わう。そして構成から主題に迫る。
8	中間試験	今までの学習内容についての理解度を確認する。
9	感想文	さまざまな角度から感想を書く。
10	詩を鑑賞する	「永訣の朝」を通して詩という芸術の特徴を理解する。
11	詩の表現	詩独自の表現上の特色を考える。
12	主題	感動の中心をつかむ。
13	実用的な文章を読む	「揚げ物のコツ」を読みその特質を理解する。
14	説明文	表現, 内容から書かれた目的や役割をはたしているかを検討する。
15	随想を読む	「君にあてた手紙」を読みその特徴をとらえる。
16	内容	題材や着眼点について考察する。
17	展開	筆者の視点を理解する。
18	評論を読む	「間」の感覚という美術評論家の文章を読んで日本人の美意識を理解する。
19	内容	西欧と日本の建築を比較する。
20	展開	西欧と日本における花。
21	日本の文化	その特質を考える。
22	実作	評論を書く。
23	中間試験	主として授業内容についての理解度を確認する。
24	小説を読む	「高瀬舟」を読み文体の特徴をつかむ。
25	「高瀬舟」	構想, 構成を理解する。
26	登場人物	人物像を明らかにする。
27	主題	現代の状況とも比較し主題をつかむ。
28	俳句を読む	「夏は来ぬ」の俳句を鑑賞し表現上の特色を知る。
29	俳句鑑賞	独特の約束事を知る。
30	実作	俳句を創作する。
備考	中間試験は実施しない。定期試験を実施する。	